

平成27年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(宝木地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成27年度 第5回
まちづくり懇談会《宝木地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《宝木地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成27年8月26日（水）午後7時～午後8時30分
- 2 開催場所 宝木地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 53人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，北市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

宝木地区まちづくり協議会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	高齢者の健康づくりのための公園の活用について	公園管理課 健康増進課 政策審議室
2	大谷スマートインターチェンジ建設に伴う安全対策について	土木管理課 道路建設課 学校健康課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 高齢期の生活を充実する (2) 都市の福祉力を高める (3) 危機への備え・対応力を高める

No.	意見	所管課
1	ゲートボール場・グランドゴルフ場の整備と射撃場跡地の活用について	スポーツ振興課 政策審議室 緑のまちづくり課

(5) 自由討議

No.	要望	所管課
1	生活道路の拡幅について	土木管理課
2	道路補修について	道路保全課
3	老人会について	高齢福祉課
4	留守家庭児童会について	生涯学習課

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	高齢者の健康づくりのための公園の活用について
------------	-------------------------------

高齢化が進み 65 歳以上の方が 4 人に 1 人と言う統計が発表されたが、誰もが健康な長寿生活を送りたいと願っている。

当地域では公民館等を利用した居場所づくりを進め、また、老人クラブにおいて屋外活動を奨励するなどの施策を進めている。

しかし、もう一歩進んで、高齢者自らが散歩やウォーキングなどにより健康な身体作りをすることが理想であると思う。

そこで次の 2 点について伺う。

1 つ目は、宝木地域には健康の森がある。健康の森には敷地内にウォーキングコースが設けられ、多くの方々が利用している。ただ、残念なことに高齢者が健康増進に役立つ、しかも気軽に利用できる設備・施設はなく、ただ歩くだけのコースである。

管理者は県であるので、市の施設ができないことは承知しているが、市が県に積極的に構想を持ち上げ、高齢者の健康づくりに役立つ遊具を作るよう働きかけてほしい。

2 つ目は、地域内に多くの公園がある。これらの多くは児童公園的なものであり、児童のための遊具は備えられているが、高齢者の健康・体力を増進するような器具の設置は全くない。

どうか、高齢者の健康づくりに役立つ器財を設置する等、健康づくりに役立つ施設にしてほしい。

回答	所管課：公園管理課，健康増進課，政策審議室
-----------	------------------------------

【市長】

宇都宮市の人口は約 51 万 8 千人であるが、平成 22 年は 5 人に 1 人が 65 歳以上であった。平成 29 年には宇都宮の人口もピークになるだろうと言われている。

平成 29 年にピークを迎え、人口が 50 万人を維持できるのが平成 42 年である。人口が 50 万人を切るまでに宇都宮が 100 年先も持続できるというまちの骨格をつくれれば宇都宮は生き残ることが出来ると思っている。

高齢化率について、平成 22 年は 5 人に 1 人が 65 歳以上であり、平成 52 年には 3 人に 1 人になる。

5 人が 1 人、4 人が 1 人の高齢者を支えることは出来ると思うが、2 人で 1 人や 1 人で 1 人を支えるというのはどう考えても無理な話であり、そうならないために宇都宮市は自然増、社会増を図っていくと共に、高齢化社会になっても持続できるまちに変換し、縮小に向かう社会を構造的に支えることが出来るまちをつくっていくというのが、宇都宮市の考えるネットワーク型コンパクトシティである。

これはどこに住んでいてもいつまでもそこに住み続けることが出来る、病院や銀行や郵便局、介護施設、学校など日常生活に必要なさまざまなものが、その地域に揃っ

ていて、車の運転が出来なくなっても移動が出来るという公共交通網を整備し、バス路線やLRTで結び、乗り換えさえすれば免許が無くても、運転が出来なくても何処にでも行って帰ってくる事ができるまちである。

宇都宮市では本年度、100歳以上になる方が271名であり、うち、男性は40名である。寿命が伸びることも社会が成熟していることなので良い社会だと思うが、そこに足りないのが健康寿命を延ばすことである。全国では女性の平均寿命が86歳になったが、健康寿命は74歳であり、そこには12歳の差がある。つまり、12年間は介護が必要、なかには寝たきりになってしまう。健康寿命と平均寿命が一緒になれば良い社会になっていく。

そこで、宝木地域においては健康寿命を延ばすため、また、地域の高齢者の方々が生き甲斐を持って生活が出来るために、老人クラブや「ふれあい・いきいきサロン」などを地域が主体となって活動を展開していただいております、こうした活動が全地域で行えれば健康寿命の延伸に繋がっていくと思う。

地域の健康づくりを推進するために、宇都宮市では各地域でウォーキングマップを作成、健康づくり推進組織の育成支援に力を入れて取り組んでいる。

各地域で様々な取組が出来るように支援をしているが、身近な公園で高齢者の方々が気軽に健康づくりが出来るような地域をつくっていくこと、気軽に健康体操が出来るようになることは、健康寿命にも繋がると共にそこで高齢者同士の会話が生まれるので、地域の方々のコミュニケーションづくりも出来ると思う。

そこで、背伸ばしベンチやぶら下がり器などの健康遊具の公園への設置を進めている。これまでは子どもたちの遊具が中心だったが、これからは高齢者向けの遊具を設置していく。

そのほかに市では、保健と福祉の出前講座において健康遊具に関する運動教室を行い、推進を図っている。

遊具の更新は劣化診断を行い、古くなった物から順に優先度の高い公園から設置を行っている。

宝木地区では、平成28年度に中丸公園での遊具の更新を予定している。また、宝木団地児童公園などの地区内の老朽化した公園についても順次、遊具の更新に取り組んで行く予定である。その時には地域の方々、自治会やまちづくり協議会、老人クラブの方々にお集まりいただき、どのような遊具がよいか、どのような場所に設置したらよいかを地元の方々の御意見をいただき、協議していただいで設置をしていきたいと思うので、是非、御協力をいただきたい。

2つ目のとちぎ健康の森は、県が健康増進や生きがいづくりを目的としてつくられたものであるが、地域の皆様がより一層気軽に利用出来るように、市としても皆様の御意見を地域の総意ということで県には伝えていきたいと思う。是非、皆様も地域から意見をどんどん県に言っていただけると我々と一体となった動きとなるので是非その点をお願いしたい。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	大谷スマートインターチェンジ建設に伴う安全対策について
-----	-----------------------------

私たちの町内でも、子どもたちを健全に育成することを町会全体で、一番の目標としてやっている。私の自治会は北南約 2 キロメートル、東西約 500 メートルの狭い町内であるが、約 1,600 世帯が住んでいる。そこには縦に通る昔からの狭い道が 2 本ある。そしてこの町内に小学校が 2 つ、中学校が 1 つある。通学路に相当な数の通勤の車が通るので宝木地区の駐在所と連携し、地域の皆さんのお世話になって事故のないまちづくりを行っており、そういうまちを持続していくことが我々の使命だと思っている。

新聞やニュースによると、大谷スマートインターチェンジの開通により、1 日 5,000 台の車が利用するという想定も聞いている。5,000 台の車が通った時に大谷街道が渋滞になれば細い道を見つけて入って来ると思う。そうなった時に、今まで事故の無い自慢出来る町内だったが、これから本当に心配でならない。

都市計画道路は、計画されてから 30 年以上経っており、未だ全然手つかずになっている。

また、都市計画道路の上に住んでいる地権者の方は、もう 30 年前からここは都市計画道路になると通知を受け、ずっとそのまま住んでいるわけである。この先にも団地があるが、団地の中も通り抜けるようになる。

団地も今後何年かで整備されるが、その時に当然、都市計画道路の部分は整備されると思うが、そうしたことも含めて、我々が住んでいるこのまちの交通安全、住みよいまちと言われたこのまちを維持していくのには、いち早く大谷スマートインターチェンジの開通に併せて、都市計画道路の整備を計画していただき、中丸野沢線はゴルフ練習場の入口側の角まで行く道路だと思うが、当座は新里街道までを整備してもらうようにしていただければ車の流れは十分緩和されるのではないかと思っている。そこでこの大谷スマートインターチェンジの計画道路を行うのと併せて、都市計画道路も是非進めていただきたい。

回答	所管課：土木管理課，道路建設課，学校健康課
----	-----------------------

【市長】

宇都宮インターや鹿沼インターは中心市街地，県庁，市役所方面へ行くには，遠回りをしなければならない場所にある。（仮称）大谷スマートインターチェンジの設置場所は，鹿沼インターと宇都宮インターの中間に位置する。

スマートインターチェンジ建設については，国から許可が下りたが，集客効果や地域振興，利便性の向上に当然繋がっていくと思う。

また，平成 18 年度から，国などの関係機関と協議・検討を進めてきたが，平成

25年度より、地元の皆様にも、全体構想とルートについて説明をさせていただきました。

こうした中、国において、6月30日に新規事業化が決定した。市としては、今後、国、県、警察、ネクスコと更なる連携を図りながら、事業の具体化に向けて準備を進め、平成32年度頃には開通させていきたいと考えている。

これまでスマートインターチェンジの整備に際しては、地域の皆様方の御理解と御協力をいただいた。

今後も、安全な交通を確保していくのが重要であるので、県や警察等と周辺道路の整備による道路ネットワークの強化、対策などについて十分に考えていきたいと考えている。

警察との協議を行わないと計画は作ることが出来ないし、国に申請することも出来ない。1日約5,000台、上りが2,900台、下りが2,100台を想定して整備計画し、取り付け箇所についても協議、調整を行っているところである。

具体的に説明すると、平成32年度までに、大谷街道や山崎街道などの幹線道路に係る拡幅工事として、右折車線の設置、歩道の整備などを行っていく。交差点改良や警察の協力による信号サイクルの調整を行い、交通渋滞が起きないように、生活道路に車が入って行かないような工夫をしていきたい。

個別に説明すると、まず、大谷街道については、県において、中丸公園前、餃子の正嗣付近から東北自動車道の西側の大谷保育園の南東付近までの1,200メートルの区間で、拡幅、歩道整備と右折車線の設置などの整備を行う。

次に、山崎街道については、市において、中丸野沢線とのローソンがある交差点から宇都宮環状線とのゼビオの交差点の620メートルの区間で拡幅整備を行っており、今後、宇都宮環状線との交差点において右折車線の設置を行う。

また、中丸野沢線については、市において、健康の森北側入口交差点の210メートルの区間で右折車線の設置を行うほか、健康の森南側入り口付近から大谷街道の狭又郵便局との交差点の250メートルの区間で右折車線の延伸を行う。

また、生活道路や通学路についても、スマートインターチェンジ利用者が生活道路等へ進入してくることがないように、地域の皆様の御協力をいただきながら、誘導看板の設置による対策を進めるとともに、警察、地域、学校の協力をいただきながら、必要な交通規制を進めていくなど、引き続き安全性の確保に努めていく。

中丸野沢線については、大谷街道と日光街道を結ぶ都市計画道路として位置付けており、山崎街道以北の整備については、大谷スマートインターチェンジや周辺道路の整備後の交通状況や今後の本市全体の道路ネットワークの整備の状況を踏まえながら検討していきたいと考えている。

地域の皆様の御意見をいただきながら進めていきたいので、その都度、何かあればしっかりと対応をしていきたいと考えている。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 高齢期の生活を充実する (2) 都市の福祉力を高める (3) 危機への備え・対応力を高める
-----	--

総合計画とは、宇都宮のまちづくりの最も基本となる計画であり、いわゆる羅針盤となるものであるが、5年後の市民の幸せ、100年後のまちの繁栄に向けた道筋を示したものである。

5年、10年先を見据えたまちづくりというのはどこでも得意だと思う。それは場当たりの政策になりがちなので、宇都宮市としては財政も含めて5年後、10年後の市民の直近の幸せのほかに100年後もきちんと見据え、これからの子どもたち、これからの人たちのためのことも考えながらまちづくりを進めて行こうという考えのもとに総合計画を策定している。

高齢期の生活を充実する

まず、宇都宮市の状況であるが、少子・超高齢化や核家族化の進行により、ひとり暮らし世帯や認知症などの介護を必要とする高齢者の増加が見込まれるなど、地域におけるケア体制の充実が求められるとともに、豊富な経験、知識、技術を持った元気な高齢者が、まちづくりの担い手として活躍することが期待されている。支えられるのではなく、いつまでも支える側にいていただきたいということが期待されている状況である。

こうした中、高齢者がいつまでも、介護を必要とせず、住み慣れた地域で、健康で生きがいを持って安心して暮らせるよう、健康寿命の延伸に向けた介護予防の充実を図るとともに、元気な高齢者が地域の中で活躍できる仕組みづくりが重要となる。

宝木地区においては、細谷地区と合同で、健康づくり推進員を中心に、毎月2回の「ストレッチ&リズム体操教室」などの健康づくり活動を実施するとともに、「宝木地区老人会」では、日頃から高齢者自転車教室やカラオケ、健康体操などを定期的開催しており、会員間の親睦を図っていると伺っている。

また、地区社会福祉協議会を中心に、ひとり暮らし高齢者を対象とした「ふれあい食事会」を年12回実施しており、そのうち2回は小学校の「ふれあい給食会」にも参加をするなど、地域内活動に積極的に参加いただいていると伺っている。

高齢期の生活を充実させるためには、高齢者の方が、いつまでも健康で生きがいを持ち、住み慣れた場所で安心して生活できることが重要である。

こうした理由から、「高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で、健康で生きがいを持ち、また、介護が必要になっても尊厳を保持しながら、安心して自立した生活を送っています。」を5年間での望ましい姿として目標に設定し

た。

目標達成に向けた主な事業は、高齢者の社会参画の推進、認知症高齢者等対策の充実、介護保険事業の充実などである。

まず、高齢者の社会参画の推進に係る事業として、平成 26 年度から「高齢者等地域活動支援ポイント事業」に取り組んでいる。

社会福祉協議会ボランティアセンターに団体・グループとして登録する必要があるが、団体が取り組む清掃ボランティアなどの地域貢献活動や介護予防自主グループの活動に参加した場合、1 回につき 1 ポイント、100 円相当が付与される。貯めたポイント数に応じて、介護保険料の納付や市の施設利用券、バスカードなどへの交換が出来る。また、ボランティア団体への寄附に充てることも出来る。

今年度からポイント交換が始まったが、5 月末時点で、約 40 万円相当分のポイント交換が実施されており、その内、約 15 万円相当分がボランティア団体への寄附として利用され、約 11 万円相当分が図書カードへの交換として利用されている。事業を利用している方々からは、「やりがいがある。」、「やっけていて目標が出来る。」、「楽しい。」、「社会貢献が出来、自分の健康も維持できる。」と大変好評を得ている。

主な施策指標は「高齢者がボランティア活動へ参画する割合」の増加などである。

都市の福祉力を高める

少子・超高齢化や核家族化の進行、雇用形態の多様化、生活困窮世帯の増加などにより、地域での支えあいや、安定的で良質な保健・福祉サービスが求められている状況である。

こうした中、地域の誰もが安心して暮らせるようにするため、地域で支え合う力を一層高めるとともに、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という、「ユニバーサルデザイン」の理念に基づく、生活環境や移動環境の改善に向けた取組など、都市の福祉基盤の総合力を高めることが重要である。

宇都宮市においては、高齢者や障がい者を含め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行うため、地域の事情に応じた福祉活動が展開できるネットワークの形成や公共施設のバリアフリー化を進めている。

宝木地区においても、自治会、民生委員、福祉協力員が連携し、「ひとり暮らし高齢者」や「老々世帯」などの見守り支援活動に取り組んでいると伺っている。

地域の誰もが安心して生活を送るためには、地域や事業者などとの連携強化に努めながら、地域住民の皆様がともに手を取り合って助け合い、支え合う地域づくりが必要になる。

こうした理由から、「充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送っています。」を 5 年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業であるが、地域福祉ネットワークの形成支援、孤立死の防止対策の推進、生活困窮世帯への支援の充実などがあるが、特に困窮生活世帯への支援であるが、繰り返しそのような状況に陥らないように、困窮生活世帯の中学生を

対象とした学習支援を実施している。市内3か所で中学生の勉強を指導しており、宿題をはじめ予習等も行っているが、進路相談も併せて行っている。こうした場所に来ることができない子どもたちには通信添削により指導を行っている。

主な施策指標は「市有施設のバリアフリー化施設の割合」や「健康・福祉に関する相談取扱件数」などの目標値を決めた。

危機への備え・対応力を高める

東日本大震や日本各地で相次ぐゲリラ豪雨、活火山の噴火などによる大規模災害の発生により、安全・安心なまちづくりへの関心が高まっている。

また、火災や救命救急など日常的な危機に対する適切な対応が求められており、様々な危機への備えが必要な状況である。

こうした中、様々な危機が起こり得るとの認識のもと、災害による被害を最小限に抑えるためには日頃からの備えが重要になる。

本市においては、災害発生後1日間に4万9千人が必要な食糧、生活必需品を確保した防災備蓄庫を市内15か所に整備するとともに、災害初動時において、一時的・緊急的に被害者を受け入れていただく備蓄避難所を、今年2月に市内39か所から47か所に増設をした。

宝木地区においては、これまで備蓄避難所として指定していた宝木小学校に加え、地区の皆様から御意見をいただき、新たに西が岡小学校を備蓄避難所として整備をした。

また、宝木地区においては、平成25年度に防災体制の強化を図るため、宝木地区の防災規約や防災計画等のマニュアルを見直すとともに、地域独自の防災隊を編成したと伺っている。

さらには、毎年、宝木地区の住民及び宝木地域コミュニティセンター利用者を対象とした地域防災訓練を開催するなど、積極的に災害に強い地域づくりを推進している皆様の取組に改めて敬意を表したい。こうした行為がどんどん全地区に広がっていくことを望む。

危機への備え・対応力を高めるためには、消火、救急活動、備蓄庫の整備など地方自治体が主体となる取組や、自主防災会や地域独自の防災訓練など地域で助け合う取組に加えて家庭での備蓄食料の準備など、自分の身は自分で守る取組も重要である。

これらの活動がそれぞれ連携をして災害などに強いまちづくりを進めて行くことが必要である。

こうした理由から、「市民、地域、行政の危機への備え、対応力が高まり、地震や風水害をはじめとするさまざまな危機が発生した場合に、適切な行動ができるようになっていきます。」を5年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、備蓄体制の充実強化、通信体制の強化であり、MCA無線という防災行政無線による連絡体制の強化を図っており、現在、614台を設置している。また、消防本部、消防署、災害対策本部等のネットワーク化などの機能整

備も行っている。来年4月にはその体制を運用開始していく。

主な施策指標であるが、「自主防災会を中心とした各地区防災訓練開催数」の増加などである。

市内39地区に自主防災会があるが、情報交換や大規模災害の際に十分な連携体制を取るため、39地区の自主防災会による連絡会議を設置した。第1回目の会議を開催したが、今後、開催を重ね、それぞれの地域、宇都宮市全体が安全で安心なまちに繋げる体制を強化していきたいと考えている。

発言 1	ゲートボール場・グランドゴルフ場の整備と射撃場跡地の活用について
-------------	---

少子高齢化は世の流れだと思っており、その点から高齢者の問題と子どもの問題について回答をお願いしたい。

高齢化に関する問題であるが、現在の高齢者の方が一生懸命支えて現在の地域があると思う。

また、子どもに関しては、これからの宝木地域、宇都宮市を支える大変な責務をもっている。

高齢者の問題について、宝木地域ではゲートボールやグランドゴルフをやる場所がゼロに等しい。グランドゴルフやゲートボールの会場は必要なのではないかと思う。

市長から高齢者の健康づくりに関する話があったが、高齢者には必要だと思うのでゲートボール、グランドゴルフの設備を考えていただきたいと思う。併せて、子どもたちが高齢者と一緒に野外活動が出来るような場所も必要なのではと考えている。

西部地区にはそういう施設が少ないので、是非お願いしたい。

また、射撃場跡地があるが、この射撃場跡地を有効活用出来ないかと日頃考えている。現在はフェンスを張って中に入ることも出来ない。草刈りや様々な管理に年間何千万円もかかっていると聞いているので、何か市でよい方法を考えていただき、野外活動に活用できる施設をつくっていただきたいと思っている。

回答	所管課：スポーツ振興課，政策審議室，緑のまちづくり課
-----------	-----------------------------------

【市長】

ゲートボールやグランドゴルフは外出をする機会にもなり、何よりも身体を動かすことでよいことだと思う。

市内のゲートボール場は、公共施設以外では、各自治会等が、土地を寄付していただいたり、無償で貸していただいたりして、整備をしてゲートボールやグランドゴルフをやっている。市としてはとてもありがたいことであり、市では土地の整備費を助成の対象としているので、地域でそういう土地があれば市の制度を利用して整備をしていただけるとありがたい。

また、市営のゲートボール場やグランドゴルフ場を新たにつくることは大変難しいので、屋板運動場など様々の施設があるのでそちらを利用していただけるとありがたい。

また、作新学院高等部女子のゲートボール部が全国優勝をした。熱心に活動しているので、作新学院に働きかけをしていただくとよいのではないかと思います。

射撃場跡地については国の管理であり、利用については、たくさんの御意見をいただいているが、旧射撃場なので、鉛を除却しないと利用できないと伺っており、利用できるようにするためには大変な労力が必要となる。国としては処分も検討しているそうだが、全面的に鉛を除却していただかないと利用することが出来ないのので、処分する際には、そうした大きな問題を解決しなければならないと思う。

なお、駒生射撃場跡地については、今後も所有者である国において、適切な保全管理に努めてもらうとともに、処分や利活用の際には、地域や宇都宮市の考え方を伝えていきたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 生活道路の拡幅について

自分の自治会は作新学院の西側、大谷街道の南側の地域にあたる。

この地域で今非常に困っているのは、生活道路が非常に狭く、タクシーの運転手も嫌がるような道路なのだが、高齢者が健康づくりの散歩すらできないような状況である。

何とか市の御協力をいただき、拡張をお願いしたいと考えている。

若干だが住宅も密集してきた。そこで火災などがあった時は当然大型の消防車は入ってくることはできない。大火災に繋がることは間違いないと思う。旧道路なので少しずつでも拡張工事に入っていただければ東中丸自治会のメイン通りなので、地域としても非常に助かるのでよろしく願います。

回答 所管課：土木管理課

【市長】

昭和 30 年頃に市道認定された道路である市道 648 号線であるが、地域の皆様の生活道路として大変利用されている道路だと思う。

栃木県では周辺部において宇都宮環状線の道路整備や大谷街道の整備・拡張を行っている。

一部において分譲や住宅の建て替え等によってセットバックされ、道路幅員が 4 メートル程度の箇所がある一方、4 メートルにも満たない箇所もある。東西両方向の通過交通があり、すれ違いが困難な箇所も見受けられる。

このような中、当該道路の拡幅については、自転車、歩行者の安全確保や防災面

において有効であると考えているが、本市の生活道路の整備方針として、7メートル未満の道路整備については隣接の地権者の土地の寄附が前提となっている。宇都宮市の7メートル未満の道路拡幅については全て土地の寄附により整備されている。

出来るところから進めていくために、土地所有者の皆様の協力をいただき自動車の退避場所を設置することや、自動車への注意喚起のための「歩行者注意」などの路面表示など、表示板や道路、路面の表示は土地の寄附をいただくまでもなく、すぐに実行できるので、地元の方々の御意見をいただき、どこに設置したらいいかなど御意見をいただければすぐに行く。

まず出来ることからやっていくことが一番の近道なので御協力をお願いします。

発言 2 道路補修について

道路が直径30センチくらい壊れてしまい、市が補修してくれるがまたすぐ壊れてしまう。もう少し丁寧にやっていただけないか。

回答 所管課：道路保全課

【市長】

すぐに対応させていただきたいと思うので、場所を教えてください、立ち会っていただきたい。

本格的な道路改修となると優先順位とかがあると思うが、御指摘のようにすぐにだめにならないように対応したい。

発言 3 老人会について

宝木地区はあまり老人会に入る人がいないようである。老人会という名前が悪いという声もある。今年は老人会の50周年記念の式典があるので、高齢者に対しては市の方もいろいろ参加していただいているが、これまで以上に市の支援をお願いしたい。

回答 所管課：高齢福祉課

【市長】

宇都宮市のジュニア未来議会において、子どもたちに、65歳以上だからと言って高齢者扱いをするのはおかしいだろう、まして「老人クラブ」と言うのはイメージが悪いという意見があった。宇都宮老人クラブ連合会も「おおいちょう宇都宮」という愛称をつくったが、「老人クラブ」という名称が先に出てしまうからだと思う。皆様にも元気な高齢者としてクラブの中で活躍していただき、知恵や経験を活かしていただきたいと思う。

発言 4	留守家庭児童会について
-------------	--------------------

8月17, 18日に子どもたちと西が岡小学校体育館でベニヤ板に絵を描くということをやった。午前中で終わり、午後、帰る頃になると暑くなってきた。今年度から留守家庭児童会の対象者が6年生まで拡大になったので、これまで使用していた部屋が手狭になり、体育館の1室にクーラーを付けていただいた。夏休みに入り、子どもたちも楽しく通ってきていると思っていたら、暑さに負けていてかわいそうじゃないかという話を耳にした。これを市はどのように考えているのか。

回答	所管課：生涯学習課
-----------	------------------

【市長】

今年から6年生まで拡大という国の指針が示され、宇都宮市も学校ごとに対応をした。おそらく1年目なので様々な不測の事態が出てきたのだと思う。生涯学習課も知っているということなので対応はしているのだと思う。

もう一度確認をして、どのような状況でどういう対応を図るのか、図ったのかを御報告する。